

古代文化センター令和4年度調査研究年報

■古代文化センター企画運営委員会

〔1〕第1回 書面開催

出席委員 10名（佐藤、久留島、小林、千葉、仁藤、俵木、平郡、山村亜紀、山村桃子、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) 出雲と伊勢
- 2) 古代隠岐の形成と特質
- 3) 島根県域における弥生社会の総合的研究
- 4) 中世山陰の戦争と地域社会
- 5) 島根の前期古墳
- 6) 鋳物と鋳物師の研究

(2) 報 告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 島根県立古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

〔2〕第2回（令和5年3月8日（水） 於：松江市殿町 サンラポーむらくも）

出席委員 10名（佐藤、久留島、小林、千葉、仁藤、俵木、平郡、山村亜紀、山村桃子、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) 出雲と伊勢
- 2) 古代隠岐の形成と特質
- 3) 島根県域における弥生社会の総合的研究
- 4) 中世山陰の戦争と地域社会
- 5) 島根の前期古墳
- 6) 鋳物と鋳物師の研究

(2) 報 告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 島根県立古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

■調査研究事業

〔1〕基礎研究

(1) 考古基礎資料調査研究

① 墓制調査

a. 前期古墳の基礎的研究

令和元年度から前期古墳の基礎的研究を継続して進めている。今年度は11～12月にかけて、名分丸山1号墳（松江市鹿島町）の発掘調査をおこなった。同古墳は全長約40mの前方後方墳で、墳丘形態などから県内最古段階のものと推定されており、令和元年度にはレーザー測量調査を実施している。今回の調査により、①墳頂部で木棺陥没痕とみられる落ち込み2箇所を確認、②棺上に供献された土器を検出、③前方部がバチ形に開く墳丘形態を確認した。②③から、同古墳が古墳時代前期中頃の築造で、出雲地域で前方後円墳・後方墳が出現する段階に相当することが確定できた。この古墳が所在する講武平野一帯は日本海に開けた海上交通の拠点であり、弥生時代から活発に広域な地域間交流がおこなわれてきた。今回の成果は、出雲地域における古墳の出現過程や、王権・他地域との交渉を考えるうえで重要な手がかりと言える。なお、本研究はテーマ研究「島根の前期古墳」と連携しながら進めており、今後も同研究に必要な基礎的研究と位置づけて実施する。

b. 横穴式石室の基礎研究

今年度から開始した新規研究。横穴式石室・横穴墓およびその出土品に関するデータを蓄積し、将来的なテーマ研究等に展開するための基礎的な研究をおこなう。資料化されていない横穴式石室の実測や、石棺式石室の三次元モデル作成などをおこなう。今年度は、才光寺K113号墳（松江市大草町）の横穴式石室の実測、三次元モデルの作成を行った。

（池淵・伊藤徳・岩崎・岩本・東森・東山・廣江・仁木・松尾・吉松）

② 基礎資料調査（出土品再整理）

a. 西川津遺跡出土品再整理

本事業は過去に島根県教育委員会が発掘調査を実施し、現在埋蔵文化財調査センターで収蔵している出土品のうち、報告書非掲載遺物を中心とした再整理をおこない、その内容を明らかにするものである。その成果を展覧会や刊行物で広く活用することを目的としている。

昨年度から西川津遺跡海崎地区【『西川津遺跡Ⅲ』（島根県教育委員会1987）、『西川津遺跡Ⅳ』（島根県教育委員会1988）、『西川津遺跡Ⅴ』（島根県教育委員会1989）】の再整理を開始し、今年度は2年目になる。整理の方法は土層図から基本層序を再整理し、各層位と出土遺物を照らし合わせることで遺跡全体の堆積過程を復元し、遺構や重要遺物の年代的位置づけを明確にし、遺跡の全体像をより詳細に明らかにすることである。

今年度は『西川津遺跡Ⅲ』（138箱）と『西川津遺跡Ⅳ』（221箱）の土器を対象に分類をおこなうとともに、土層との対応関係を検討した。これにより、昨年度の成果と合わせ、西川津遺跡海崎地区の堆積状況と各層位の年代を概ね把握することができた。

b. 日韓交流の基礎研究

今年度開始した新規研究。弥生～古墳時代を対象に、島根県域と朝鮮半島との交渉関係を示す資料を素材にして基礎的な研究をおこなう。当面は、山陰を中心とする日本海側における三国時代の資料情報を収集し、実測・写真撮影などの記録化を図る。今年度は津和野町郷土館、益田市鎌手公民館、浜田市教育委員会、安来市教育委員会、松江市が所蔵する新羅・加耶地域由来の陶質土器について調査を実施し、資料を実見する検討会を開催した。

（稲田・是田・鈴木・椿・東森・深田・真木・松尾・吉松）

③ 生産遺跡調査（県内鋳造遺跡・鋳物師関連資料集成、古代窯業生産）

a. 近世近代在地陶磁器調査

昨年度まで実施してきた県内鋳造遺跡・鋳物師関連資料集成がテーマ研究に移行したため、今年度からあらたに、近世近代の在地陶磁器生産に関する基礎研究を開始した。県内における窯業遺跡や関連する伝世資料についてデータを収集、記録を作成し、島根県域における陶磁器生産史の全体像や、その特質を明らかにすることを目的としている。当面は石見焼を対象とし、今年度は吉田製陶所（浜田市上府町）の工場建物

(築90年で操業中のものとして最古級)の実測調査や、石州嶋田窯(江津市後地町)、石州宮内窯(江津市二宮町)の聞き取り調査を実施した。

b. 古代窯業生産(須恵器・埴輪等の産地分析)

県内の須恵器・埴輪について、埋蔵文化財調査センターに設置している蛍光X線分析機器で胎土分析をおこない、遺物の型式学的研究とあわせ産地や製品の流通について検討するための基礎データを得ることを目的とする。

今年度は、出雲地域では初期の窯である門生山根1号窯について分析を進める計画であったが、年度前半に計測機器の不具合が生じたため中断、来年度当初から再開する計画。

(上山・岩本・勝部・東森・東山)

④ 青銅器調査(荒神谷遺跡青銅器調査)

昨年度末に『荒神谷遺跡青銅器群の研究』を刊行し、平成22年から継続した荒神谷遺跡青銅器の最修理事業に伴う調査研究事業はいったん完了した。今年度は、テーマ研究「島根県域における弥生社会の総合的研究」と連動するかたちで、出雲における青銅器文化の実態に関する多面的な分析に着手した。ここでは当センターが長年集積してきた全国の青銅器埋納地の立地環境に関するデータを中心に、景観や自然立地条件、周辺の集落・墳墓の分布や可視領域などの要素について総合的に検討を始めている。また、荒神谷・加茂岩倉・志谷奥遺跡と多数埋納、入れ子の採用など類似点が多い松帆銅鐸群(兵庫県南あわじ市)との比較研究に着手した。

(澤田・増田)

⑤ 客員研究員共同検討会

2023年2月9日 埋蔵文化財調査センター

(2) 風土記調査研究

① 基礎資料調査

a. 風土記写本写真一覧表の更新

当センターが撮影した『出雲国風土記』等の写本写真のうち、研究者・県民等が閲覧できるものを一覧表に整理し、当センターHP上に公開中。本年度は昨年調査成果を発表した写本2点(長谷川氏本・絲原家本)の情報を追記した。

b. 風土記写本の写真データ公開

昨年度より、国文学研究資料館の新日本古典籍総合データベースにて当県教育委員会所蔵の『出雲国風土記』写本(古代文化センター本・勸修寺家本・菅野本)の写真を公開した。本年度はいずれも個人蔵の倉野家本(島根県立古代出雲歴史博物館寄託)・郷原家本(岸崎氏本)の写真を公開した。

c. 風土記写本調査

勝部氏本『出雲風土記抄』写本調査(2022年9月22日、島根県立大学)

(参加者)橋本剛・野々村安浩

d. 『訂正出雲風土記』の古代出雲歴史博物館への寄託

出雲大社神官・竹崎嘉通が写した『訂正出雲風土記』の寄託を受けた。明治初頭における風土記の研究状況や神社認識を知ることができる貴重な資料と位置づけられる。

② 歴史景観復元調査

a. 国府周辺の研究(風土記の丘地内調査支援)

第34回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会(2022年10月21・26日、八雲立つ風土記の丘展示学習館)

(出席者)橋本剛・平石充

③ 出雲国風土記校訂・注釈本作成

a. 島根県古代文化センター編『出雲国風土記 校訂・注釈編』刊行(2023年3月31日)

A5判、全720頁〈一般販売も実施〉(総論、総説、校訂本文、読み下し文、補注、参考文献、本文索引など)

④ 出雲国風土記の総括的研究

a. 兵庫県との研究連携

ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和4年度第1回研究会(2022年5月22日、オンライン会議)

(参加者) 平石充・橋本剛・野々村安浩・久保田一郎・松尾充晶

ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和4年度第2回研究会(2022年11月20日、オンライン会議)
報告: 平石充「古代出雲の鳥取部について」

(参加者) 平石充・橋本剛・松尾充晶

ひょうご歴史研究室『播磨国風土記』研究班 令和4年度第3回研究会(2023年3月18日、オンライン会議)

(参加者) 平石充・橋本剛・久保田一郎・野々村安浩・松尾充晶

(橋本・平石・久保田・野々村)

(3) 祭礼行事調査研究

島根県内の祭礼行事および民俗分野に関わる事象について、調査研究と記録作成を行い、その具体的内容と全体的性格を明らかにする。

① 民俗芸能等調査・記録作成

a. 「熊山三寶大荒神式年神楽」編集

「熊山三寶大荒神式年神楽」は、松江市東忌部町の熊山地区で33年に一度開催される式年神楽である。新型コロナウイルスの影響により当初の予定から延期され、2021年5月15・16日に開催された。この式年神楽で上演される「大原神職神楽」(島根県指定無形民俗文化財)は、主に旧大原郡の神職を中心に構成される大原神職神楽保持者が伝承している。

昨年度は、ほぼノーカットで収録した〈記録編〉全9巻を作成したが、今年度は、式年神楽のダイジェストと関係者のインタビューによって構成した〈公開編〉(約20分)と〈短編〉(約10分)を作成した(いずれもBDおよびDVDに収録)。(石山)

b. 「熊山三寶大荒神御誕生祭」の記録映像の撮影

式年神楽の一年後に御誕生祭が行われ、この御誕生祭をもって式年神楽の一連の行事が終了となる。御誕生祭は、2022年5月22日に開催された。午前中は荒神碑前において神事が行われ、午後からは大原神職神楽が熊山地区の公民館において舞われ、講中の人たちが神楽を楽しんだ。当日の神事ならびに神楽の記録撮影を行った。(石山・浅沼)

c. 「槻の屋神楽」記録映像の撮影

「槻の屋神楽」(雲南市木次町湯村、昭和37年島根県指定)は、平成14年度に記録映像を撮影したが、その当時未収録だった演目等を中心に、2020年から3年計画で撮影を実施することとし、初年の2020年には2演目を撮影した。しかし、2021年は新型コロナウイルスの蔓延により、練習機会の確保が困難になったことから、撮影が延期となった。

2022年も練習機会の確保は難しい状況にはあったが、撮影を再開することになり、2022年11月6日に、舞所(舞殿)設営と、能舞の〈須佐遷宮〉、七座の〈八乙舞〉、奏楽の〈清目〉の撮影を実施した。(浅沼・藤原)

d. 盆踊り所在確認調査

2020年度から実施中の事業。21年度は調査票の送付先となる盆踊りの保存会や大会実行委員会、公民館などのリスト化を行い、22年度はそのリストを元に、調査票の送付と集計を行った。23年度夏に予定していた現地調査は、各地の夏祭りや盆踊り大会が中止となったため、来年度実施予定。(浅沼)

② 民俗資料収集調査

a. 民俗芸能関連用具類調査・撮影

2023年度に予定する美保神社(松江市美保関町)所蔵の奉納鳴物(昭和35年重要有形民俗文化財指定)の調査と記録撮影を行うため、調査・撮影対象の抽出作業を行った。(浅沼)

b. 『石見国神社記』の翻刻

同書は明治初年に実施された石見全域の神社調査をもとに、藤井宗雄が各社の社伝や棟札からの情報も加えて1887年に完成させたものである。同書はこれまでに山藤忠氏が『郷土石見』誌上で現江津市・浜田市域部分を翻刻したり、『桜江町誌』や『川本町誌』などが当該町域部分を翻刻したりはしているが、全体としては未刊行のままである。

2022年度は邑智郡（下）の中編を本書で報告する。（山崎）

c. 牛尾家所蔵史料調査・目録作成

2020年度から、牛尾家（江津市桜江町）所蔵の近世・近代の文書および牛尾三千夫氏（1907～1986年）収集資料の整理と目録作成を行っている。22年度は、21年度に確認された新たな史料を含めて、今後の取り扱いについて遺族と協議を行い、引き続き目録作成を進めた。（藤原）

③ 基礎調査

2020年度より「島根地域の祭礼行事と民俗芸能の変容」というテーマの元、1988年に実施された「島根県民俗芸能緊急調査」で報告された約250件と、未報告の約250件、計約500件の民俗芸能について、資料収集を実施している。現況調査について、来年度以降開始予定である。なお、①dの「盆踊り所在確認調査」は、この予備的調査として位置付け、実施している。（浅沼）

④ 客員研究員共同検討会（令和5年3月29日（木） 於：島根県立古代出雲歴史博物館）

令和4年度の事業報告および令和5年度の事業計画について協議・検討

（出席者）

客員研究員：笹原亮二、山崎亮、久保田裕道

県職員：浅沼・品川・藤原・石山・土橋

(4) 中世・近世史料の多角的研究

急速に史料が散逸しつつある現状をふまえ、前年度に引き続き島根県の中世・近世の歴史を特徴づける、県内外の公的機関・個人が所有する古文書等の調査・研究を行い、その成果の情報発信に努めた。

① 客員研究員共同検討会（2022年12月12日 於：古代出雲歴史博物館）

令和4年度の事業報告について協議・検討、同館所蔵亀井家文書の概要報告と閲覧

（客員研究員）小林准士、西田友広

（指導者）岸本 覚、天野真志、小杉紗友美

（県職員）目次、田村、土橋、岡、中安、濱田、伊藤、倉恒

② 史料調査・研究

2022年6月6日 火守神社（出雲市）棟札の調査

2022年12月16日 狭長神社（雲南市）棟札の調査

2022年12月21日・2023年1月26日・3月3日 北島家文書（古代出雲歴史博物館寄託）の整理

2023年3月22日 個人蔵中近世文書（邑南町）の調査

随時 鱈淵寺近世近代文書（古代出雲歴史博物館寄託）の整理・目録作成

亀井家文書（古代出雲歴史博物館所蔵）の整理・目録作成

大田市恒松家文書・松江市山本家文書（いずれも古代出雲歴史博物館所蔵）の整理・目録作成

③ 中世史料集成

随時 県外自治体史等から中世の島根関係記事を抽出・目録化し、古代文化センターのHPで公開

『萩藩閥閥録』目録公開作業、『山科家礼記』カード作成（目録公開済み）

『天文日記』『蔭涼軒日録』の記事抽出・目録作成、『益田家文書』5巻の記事抽出

随時 テーマ研究「中世山陰の戦争と地域社会」と連携し、城館関係史料（能義郡域）を収集

〔2〕テーマ研究

(1) 出雲と伊勢

1) 目的

出雲と伊勢は、ともに古代に起源をもつ杵築大社・伊勢神宮を有しており、国家形成史において重要な位置を占める地域として対比的に捉えられてきた。本研究では出雲と伊勢それぞれの地域社会の様相を分析し、その比較を通して、両地域の特質と日本列島の歴史に与えた影響を明らかにする。研究は中世以前を主な対象とするが、近現代に至るまで相互に影響を与えた両地域の関係性を多面的に明らかにすることを目的とする。

2) 活動概要

研究3年目となる今年度は、総括的に出雲・伊勢両地域の対比的検討、分析をおこなった。具体的にはまず、古代の杵築大社・神宮における祭祀構造を国家施策レベル・在地奉斎レベルそれぞれ重層的に分析し、神話上の位置づけに反映される両社の歴史的経緯を対比的に分析した。また、両地域における仏教受容や忌避、神宮寺の展開などについて、考古資料を含めて包括的に比較検討をおこなった。この視点に関しては、2023年2月12日に松江市で開催した公開講座「伊勢と出雲の神・仏ー古代の宗教世界を読み解くー」（主催：斎宮活性化実行委員会）において、さらに集中的にとりあげて討論をおこなった。

さらに、研究の対象時期を広げて、民衆への布教や参詣文化の展開を反映する大社御師が使用した版木の悉皆的調査をおこなったほか、中世における杵築大社の遷宮執行体制および儀礼の構成に関する分析や、近代伊勢の転換期を支えた神道思想についても分析するなど、多様な視点から両地域の比較的分析を深め、研究の総括とした。

またテーマ研究事業の最終年度にあたることから、研究成果を反映させた古代出雲歴史博物館企画展の開催に向けて準備を進め、展示構成の企画、展示候補資料の調査、出品交渉などをおこなった。

〔担当者〕松尾、橋本、久保田、田村、品川、岡、濱田

〔客員研究員〕藤森馨（国土舘大学）、榎村寛之（三重県立斎宮歴史博物館）、穂積裕昌（三重県埋蔵文化財センター）、塩川哲朗（皇學舘大学）

3) 検討会

第5回検討会（2022年10月1日 於：古代文化センター）

〔研究報告〕

松尾充晶「古代出雲における仏教の展開」

穂積裕昌「古代伊勢における仏教の展開」

平石 充「出雲・杵築大神の在地奉斎体制」

塩川哲朗「伊勢と出雲の祭祀構造」

田村 亨「中世杵築大社の造営・儀礼」

品川知彦「近代初頭の伊勢の神道思想ー浦田長民を中心にー」

第6回検討会（2023年3月12日 於：古代文化センター）

〔研究報告〕

松尾充晶「有力地域神の形成過程」

平石 充「伊勢と出雲の祭祀構造」

榎村寛之「神話の出雲と歴史の伊勢」

藤森 馨「北島国造家文書調査の成果」

岡 宏三「近世初頭の杵築と神宮」

田村 亨「中世杵築大社の祭儀」

総 括「出雲と伊勢ー両地域の特質ー」

4) 資料調査等

2022年6月8日～11日 伊勢方面資料調査 大阪歴史博物館、三重県埋蔵文化財センター、伊勢市立修道小学校、神島八代神社ほか

2022年7月25日～29日 伊勢方面資料調査 明和町歴史民俗資料館、鳥羽市教育委員会、志摩市歴史民俗資料館、南伊勢町愛州の館ほか

2022年7月6日～22日 大社御師版木調査 出雲市所蔵資料（弥生の森博物館、出雲文化伝承館保管）、古代出雲歴史博物館所蔵資料の調査

2022年8月15日～17日 伊勢方面資料調査 神宮文庫

2022年9月17日 伊勢方面資料調査 神宮徴古館特別展「生きる正倉院ー伊勢神宮と正倉院が紡ぐものー」

2022年11月15日 伊勢方面資料調査 二見興玉神社ほか

2023年1月31日～2月1日 伊勢方面資料調査 神宮文庫、神宮徴古館

2023年3月15日～17日 伊勢方面資料調査 斎宮歴史博物館、本居宣長記念館、三重県総合博物館、伊勢

(2) 古代隠岐の形成と特質

1) 目的

古代隠岐国の形成過程を対象とするテーマ研究である。当該時期の隠岐を知る上で重要な遺跡について、調査が行われ資料が蓄積されてきた。このうち、資料化、公開が充分行われていなかった考古資料の整理を行い、一般の研究者が利用できる状態にする。また、考古資料から本土との交流関係、ルートなど具体像を検討する。都城からは隠岐の海産物荷札木簡が多量に出土しており、そこに記載された地名・人名情報も活用しながら、7世紀後半～8世紀にかけての国家形成期に焦点を当て、地域社会形成過程の特色を探る。

2) 活動概要

研究3年目となる令和4年度に2回の検討会を実施した。第5回では、既往の研究から弥生～古墳時代に隠岐と密接な交流があったと考えられる鳥取地域の考古資料を検討し、隠岐一本土間の交通関係の具体像を明らかにすることを目指した。隠岐に特徴的な「隠岐型土師器甕」の検討では、出雲部で見られる「隠岐型」類似資料の観察を併せて行った。以上の考古学的検討に加え、正税帳など文献史料の分析からは、古代島前の人口が不自然に多いという問題点も浮かび上がった。第6回では隠岐地方の遺跡、遺構、遺物について、本土との並行関係を視野に入れた検討を行った。

検討会以外では、隠岐地方、鳥取地域の資料調査を随時行った。

〔担当者〕久保田、東森、平石、岩本、神柱、勝部、是田、渡部

〔客員研究員〕大橋泰夫（島根大学）、花谷 浩（出雲弥生の森博物館）、市 大樹（大阪大学大学院）

3) 検討会

第5回検討会（2022年10月2日 於：埋蔵文化財調査センター）

平石 充「古代の隠岐の人口について」

岩本真実「鳥取県における古墳時代後期の須恵器の地域性」

梅村大輔「鳥取県における6～7世紀の土器様相と隠岐型甕」

中原 斉「鳥取県の古墳概要について」

参加者：客員研究員2名、関係機関6名、県職員10名

第6回検討会（2023年3月19日 於：埋蔵文化財調査センター）

岩橋孝典・久保田一郎「海士町矢原遺跡の土師器」

岩本真実「隠岐諸島の須恵器と古墳時代後期の社会」

是田 敦「隠岐国の地域計画」

大橋泰夫「隠岐国の官衙関連遺跡の再検討」

参加者：客員研究員3名、関係機関3名、県職員10名

4) 資料調査等

2022年7月19～22、25、26日、8月26日 別所古墳群、石州府古墳群他出土資料調査 米子市埋蔵文化財センター

2022年7月28日 上種西古墳群、上種東古墳群出土資料調査 旧北条町庁舎

2022年7月28日～29日 西ノ島町兵庫遺跡出土資料調査 島根県埋蔵文化財調査センター

2022年7月31日、8月16、17、21日 下焼ス遺跡、鳥越山窯跡群他出土資料調査 倉吉博物館

2022年8月1、2日 塚本古墳群、大高野古墳群出土資料調査 琴浦町生涯学習センター

2022年8月18、19、22、23日 日光長谷遺跡、東桂見遺跡他出土資料調査 鳥取市埋蔵文化財センター

2022年8月30、31日 川上古墳群、片平古墳群他出土資料調査 羽合歴史民俗資料館

2022年11月11、14～16日 名和飛田遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡他出土資料調査 鳥取県埋蔵文化財センター

2022年11月28、29日 高津久横穴墓群、河合古墳他出土資料調査 知夫村郷土資料館

2022年11月30～12月2日 物井横穴墓群、兵庫遺跡他出土資料調査 西ノ島ふるさと館

2022年12月5～8日 玉若酢神社3号群、へぎ古墳他出土資料調査 旧隠岐の島町教育委員会庁舎、隠岐郷土館

2022年12月9日 唯山古墳、新開古墳群他出土資料調査 海士町後鳥羽院資料館

2022年12月20日～23日 海士町矢原遺跡出土資料調査 海士町後鳥羽院資料館

(3) 島根県域における弥生社会の総合的研究

1) 目的

島根県の弥生時代中期から後期の実像を明らかにし、大量の青銅器を保有・埋納した「出雲」の特質に焦点を当てる。①集落（住居群・区画溝・墳墓群・生産地・祭祀）の動態などから、首長制社会へ移行する社会的統一の過程を明らかにする。②朱・鉄・ガラスのような東アジア全体に及ぶ広域流通品のありかたや、漆・玉・石器・木器といった手工業品の生産・流通の様相を分析することにより、人・物・文化が動き合う地域間交渉の実態を明らかにする。

2) 活動概要

研究2年目の今年度は、検討会を2回実施した。第3回検討会では、島根県内の弥生時代遺跡集成と遺構台帳の作成を行い、各地域の遺跡の実情を整理し、集落と墳墓の特徴を把握して意見交換を行った。第4回検討会では、集落動態と青銅器の保有・埋納形態に関する分析、赤色顔料の流通消費の検討、絵画史料・祭祀関連遺物の検討と意見交換を行った。また、県内および鳥取県の出土資料を調査したほか、西川津遺跡出土遺物の再整理作業を継続して実施した。

〔担当者〕 東森、松尾、岩本、是田、増田、深田、宮本、鈴木、上山

〔客員研究員〕 吉田 広、若林邦彦、會下和宏、寺前直人、平郡達哉

3) 検討会

第3回検討会（2022年9月29～30日 於：埋蔵文化財調査センター）

島根県内弥生時代遺跡集成

東森 晋「出雲東部」

中川 寧「出雲西部」

鈴木七奈「石見東部」

宮本正保「石見西部」

東森 晋「隠岐」

参加者：客員研究員5名、関係機関5名、県職員11名

第4回検討会（2023年3月21日 於：埋蔵文化財調査センター）

東森 晋「島根県の弥生時代建物」

増田浩太「出雲の青銅器文化について」

東森 晋「島根県の弥生時代祭祀関連遺物」

上山晶子「島根県域における赤色顔料の使用動態」

参加者：客員研究員5名、関係機関3名、県職員10名

4) 資料調査等

2022年5月2日 大田市大寺遺跡出土資料調査 埋蔵文化財調査センター

2022年5月9日～2023年3月31日 板屋Ⅲ遺跡、神原Ⅱ遺跡、門遺跡出土資料調査 埋蔵文化財調査センター

2022年5月16日 郡垣遺跡出土資料調査 雲南市教育委員会整理室

2022年6月9日 神原Ⅲ遺跡出土資料調査 飯南町教育委員会収蔵庫

2022年6月15日 神原Ⅱ遺跡出土資料調査 古代出雲歴史博物館

2022年8月9日 草田遺跡、堀部第Ⅱ遺跡、佐太前遺跡出土資料調査 鹿島歴史民俗資料館

2022年8月17日 野田西遺跡出土資料調査 邑南町郷土館

2022年9月12日 青谷上寺地遺跡出土資料調査 青谷かみじち史跡公園準備室

2022年10月19日 安来市内出土資料調査 安来市教育委員会収蔵庫

2022年12月8日 絵画土器資料調査 出雲弥生の森博物館

2022年12月9日 絵画土器資料調査 鹿島歴史民俗資料館

2023年3月2日 角田遺跡・神原正面北遺跡出土資料調査 荒神谷博物館

2023年3月10日 絵画土器資料調査 江津市教育委員会

2023年3月14日 絵画土器資料調査 大山町役場大山支所

通年：西川津遺跡（海崎地区）、郡垣遺跡、板屋Ⅲ遺跡、神原Ⅱ遺跡、門遺跡調査出土資料整理作業

(4) 中世山陰の戦争と地域社会

1) 目的

16世紀から17世紀初頭における山陰地域の戦争の様相と地域社会との関係について、各城館の特質と変遷、諸勢力の動向、地域の交通・流通、戦争経済など、様々な視角から追究する。

2) 活動概要

今年度は、2回の検討会（第3回と第4回）を実施した。第3回検討会では、①出雲地域と密接な関係にある西伯耆地域の国人動向・城館遺構について、文献・考古それぞれの観点から報告を設定し、②出雲地域の戦争と水運（日本海・内海交通）との関係について文献資料から分析を加える報告を設定した。第4回検討会では①富田城下と松江城下の出土遺物に関する比較検討を行い、②出雲西部の戦争と関わって国人動向を整理、③京羅木山上城館遺構の調査成果について共有し、出雲地域の陣城遺構との比較を行った。個別の調査では、①出雲地域を中心とする文献資料の収集・整理に継続して着手し、②富田川河床遺跡の出土遺物整理作業（実測、トレース、撮影ほか）を進め、③京羅木山上城館遺構のほか県東部の城館遺構調査を実施した。

[担当者] 田村、目次、廣江、守岡、伊藤大、倉恒

[客員研究員] 中井 均（国士舘大学）、山本浩樹（龍谷大学）、長谷川博史（島根大学）

3) 検討会

第3回検討会（2022年9月29～30日 於：埋蔵文化財調査センター）

伊藤大貴「戦国期西伯耆の戦乱と幸松氏」

濱野浩美「尾高城跡第11次発掘調査について」

目次謙一「永禄・元亀年間の出雲国富田城をめぐる戦いと水運」

田村 亨「山陰地域の軍需物資調達・輸送に関する一考察－因伯の尼子再興戦争と出雲－」

参加者：客員研究員3名、指導者3名、職員7名、県内・鳥取県関係機関職員4名

第4回検討会（2023年3月13日 於：埋蔵文化財調査センター）

小山泰生「出雲地域における16世紀後半から17世紀前半の陶磁器編年」

（事務局）富田川河床遺跡出土遺物について

倉恒康一「戦国期の神西氏について」

（事務局）京羅木山上城館遺構調査について

高屋茂男「出雲地域の陣城遺構について」

参加者：客員研究員3名、指導者4名、職員8名、県内・鳥取県関係機関職員5名

4) 資料調査等

通年：富田川河床遺跡第6次調査出土資料整理作業

2022年4月22日 京羅木山城館現地調査（安来市広瀬町）

2023年2月28日 同上

(5) 島根の前期古墳

1) 目的

古代文化センターでは、令和元年度から考古基礎資料調査研究（墓制調査）で松江市鹿島地域を対象に前期古墳研究を進めてきた。これらの成果を踏まえ、島根県域の古墳出現の画期の抽出、弥生時代から古墳時代への社会変化、地域間交渉の実態などから、島根県域における前期古墳・古墳時代前期社会の特質を明らかにすることを目的とする。

2) 活動概要

研究1年目の今年度は、検討会を2回実施した。第1回検討会では、前期古墳研究史の整理、出雲地域の前期古墳研究史の整理、鹿島地域の様相の整理などを行い、前期古墳研究の現状を確認した上で、課題や論点の抽出を行った。第2回検討会では、古墳時代像と国家形成論をめぐる研究史の整理、山陰地域の古墳出現期の様相、前方後方墳の様相、埋葬施設の様相・地域間交流などを確認し、意見交換を行った。このほか、考古基礎資料調査研究（墓制調査）と連携し、名分丸山1号墳（松江市鹿島町）の発掘調査を実施した。

[担当者] 吉松、松尾、東森、伊藤、仁木

[客員研究員] 北條芳隆(東海大学)、高田健一(鳥取大学)、岩本 崇(島根大学)、廣瀬 覚(奈良文化財研究所)

3) 検討会

第1回検討会(2022年11月5日 於:埋蔵文化財調査センター)

吉松優希「前期古墳研究の現状と課題」

池淵俊一「山陰の前期古墳研究の現状と課題—出雲を中心に—」

赤澤秀則「鹿島地域の弥生・古墳時代」

参加者:客員研究員4名、関係機関7名、県職員8名

第2回検討会(2023年3月1日 於:埋蔵文化財調査センター)

北條芳隆「古墳時代像と国家形成論をめぐる学史」

岩本 崇「山陰における古墳出現の重層性」

吉松優希「名分丸山1号墳発掘調査報告」

仁木 聡「日本海沿岸における古墳時代前半期の地域間交流について—石枕・土器枕・長大な棺床礫敷木棺(奥才型木棺)を中心に—」

参加者:客員研究員4名、関係機関5名、県職員10名

4) 資料調査等

2022年5月20日 雲南市松本1号墳、松江市月廻古墳群出土資料 島根県立古代出雲歴史博物館

2022年10月18日 雲南市小原遺跡発掘調査現場視察 雲南市

2022年11月11日 安来市五反田1号墳発掘調査現場視察 安来市

(6) 鋳物と鋳物師の研究

1) 目的

第一に、島根県内と他地域で鋳造遺跡や鋳物生産の様相を比較検討する。既存のテーマ研究の成果を活用しながら、鋳鉄素材の動きと鋳物生産の関係を分析する。次に、出雲宇波・石見市山等、鋳物師の製品や関連資料を収集し分析を加える。他県の類例も調査・比較し、鋳物生産の実態を探る。第三に、県内鋳物師相互の関係や地域社会との関わり、近世に鋳物師達を統括した京都真継家との結びつきを分析する。他地域との比較等を通じ、県内鋳物師の特色を解明する。

2) 活動概要

今年度はまず、考古基礎調査研究での成果確認や研究史の整理を目的とし、第1回共同検討会で報告と議論を行った。第2回検討会では、中世山陰における土師質・瓦質鍋の動向が鋳物の生産・流通との相関を検証する視点からの報告を得て、出土鋳造品の旧国単位で異なる年代・分布様相について議論を深めた。

出雲・石見地域の鋳物師関連資料・文献史料に関しては、松江歴史館が所蔵する遠所家史資料の調査を開始し、同館のご協力をいただきつつ、近世末から近現代に位置づけられる同家の鋳造業の全容把握に努めている。また、島根県内では松江藩釜甌(ふそう)方や石見国鋳物師山根家、県外では鳥取県倉吉市・広島県世羅町の鋳物師に関連する史資料を調査している。これらにより研究の基礎的情報を収集・整理するとともに、検討会での報告・議論を通じて理解を深めた。

[担当者] 目次、松尾、廣江、土橋、東山

[客員研究員] 五十川伸矢(元京都橋大学)、三船温尚(富山大学)、鳥谷智文(松江工業高等専門学校)、村木二郎(国立歴史民俗博物館)

3) 検討会

第1回検討会(2022年8月25日 於:島根県古代文化センター)

松尾充晶「山陰の鋳造遺跡」

東山信治「石見国鋳物師に関する考古学的調査」

目次謙一「出雲国宇波鋳物師・石見国山根家の史料」

鳥谷智文「松江藩釜甌方の史料と研究1」

土橋由奈「遠所家資・史料の紹介」

参加者:客員研究員4名、関係機関2名、県職員6名

第2回検討会（2023年3月1日 於：埋蔵文化財調査センター）

角田徳幸「三国～高麗時代の鑄銅遺跡」

八峠 興（公財）鳥取県教育文化財団調査室「山陰からみた中世煮炊具の相関」

村木二郎「八峠氏報告コメント「鉄鍋と生産遺跡の諸問題」」

鳥谷智文「松江藩釜甌方の史料と研究その2」

土橋由奈「遠所家資史料（松江歴史館所蔵）の分析－遠所家鑄造作品を中心に－」

参加者：客員研究員4名、指導者1名、関係機関1名、県職員6名

4) 資料調査等

2022年5月13日・6月17日 松江市内鑄物師史料 松江市松江城・史料調査課

2022年5月17日・9月8日 遠所家資史料 松江歴史館

2022年6月24日・7月4日 松江市内鑄物師史料 松江市乃木公民館

2022年7月13日 江津市図書館所蔵資料 江津市図書館

2022年7月21日 丹下氏関係遺品 大田庄歴史館

2022年10月3日 鶴華 波積屋所蔵資料 鶴華 波積屋

2022年11月16日・2023年2月20日・21日 倉吉の鑄物師〔斎江家〕用具及び製品 倉吉博物館

2022年12月22日・23日 堀家文書 津和野町郷土館

2023年1月25日 益田市内鑄物師資料 教西寺・高津柿本神社

2023年2月10日 絲原記念館所蔵資料 絲原記念館

5) 関連研究会等参加

2023年2月12日 新鳥取県史連携・博物館講座⑩「国指定重要有形民俗文化財「倉吉の鑄物師」

－その調査を振り返る－」 於：倉吉交流プラザ第一研修室

〔3〕古代歴史文化に関する共同調査研究（14県連携：古代歴史文化協議会）

古代歴史文化にゆかりの深い14県が互いに連携して、個々の地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明することを目的に、平成26年に古代歴史文化協議会を設立。以来、共同で調査研究を行い、その成果を生かしてシンポジウムや展覧会などを開催し、全国に向けて情報発信を行っている。島根県知事が協議会会長をつとめており、島根県古代文化センターは協議会事務局として活動の総務を担当する。平成26～30年度は研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、平成30年度には成果図書の刊行、展覧会の開催などを行った。令和元年度からはあらたに「古墳時代の刀剣類」をテーマとして、第2期の共同調査研究を進めている。今年度の活動内容は以下のとおり。

① 研究集会

・第15回研究集会（2022年8月3日～8月4日、大阪歴史博物館）

展覧会開催計画の検討、分科会（成果図書の最終調整、校正）、第3期計画の検討、協議

参加職員 角田、平石、東森、松尾、吉松

・第16回研究集会（2023年1月16日～1月17日、奈良公園バスターミナル、奈良県文化会館）

第2期共同調査研究事業の総括、第3期に向けての協議、計画の検討、資料見学

（富雄丸山古墳、なら歴史芸術文化村）

参加職員 角田、平石、岩井、東森、松尾、吉松

② 担当者Web会議

必要に応じてWeb会議による協議、意見交換をおこなった。

・第8回担当者Web会議（2022年5月25日）成果図書、展覧会、第6回古代歴史文化講演会の検討、令和5年度以降の協議

・第9回担当者Web会議（2022年7月14日）成果図書、展覧会、第6回古代歴史文化講演会の検討、令和5年度以降の協議

・第10回担当者Web会議（2023年3月）第3期事業の検討、協議

③ 中間研究発表会

展覧会会期中に「第6回古代歴史文化講演会」を開催。

- ・日時 令和4年10月30日(日)
- ・会場 大阪歴史博物館 講堂(大阪府大阪市)
- ・来場者 130名(事前申し込み制、無料)
- ・主催 古代歴史文化協議会
- ・共催 大阪歴史博物館
- ・内容 基調講演「古墳時代中期の政権構造と軍事―百舌鳥・古市古墳群の武器・武具―

田中晋作氏(山口大学客員教授)

パネルディスカッション「刀剣が語る巨大古墳の時代」

パネリスト 田中晋作(基調講演講師)

中村 弘(兵庫県立考古博物館館長補佐兼企画広報課長)

尾崎光伸(広島県立歴史博物館草戸千軒町遺跡研究所主任学芸員)

土井翔平(佐賀県文化・観光局文化課文化財保護室主事)

加藤 徹(宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主査)

コーディネータ 水野敏典(奈良県立橿原考古学研究所資料課長)

④ 展覧会

研究成果をもとに、14県に関わる刀剣関連資料で構成した展覧会「刀剣～古代の武といのり～」を開催

- ・会場 大阪歴史博物館 6階特別展示室
- ・会期 2022年10月15日(土)～12月4日(日)(44日間)
- ・展示品 約270点(うち重要文化財10件)
- ・観覧者 26,725名

⑤ 成果図書

研究成果を一般向けに分かりやすくまとめた図書を刊行

- ・書名 『刀剣―武器から読み解く古代社会―』
- ・体裁 A5版、260ページ、フルカラー
- ・刊行 10月11日にハーベスト出版から刊行。一般書店頭でも販売中(1,800円+税)

(角田・平石・東森・松尾・岩井・吉松優)

■古代文化情報発信事業

〔1〕各種講座・シンポジウム

1. 島根の歴史文化講座+オンライン(会場での講座+オンライン配信) ※会場はいずれも松江テルサ

テーマ「しまねの歴史文化研究最前線 30年間を彩る発見・論争」

第1講「島根の民俗芸能60年」 講師：山路興造氏 日時 9月23日 会場参加127人

オンライン配信 2022年10月14日～ 推定視聴者数 432人 視聴回数1083回(2月末日現在)

第2講「寛文の出雲大社大造営と徳川幕府」 講師：岡宏三氏 日時 11月6日 会場参加174人

オンライン配信 2022年11月25日～ 推定視聴者数 559人 視聴回数981回(2月末日現在)

第3講「青銅器から見た島根の弥生時代」 講師：吉田広氏 11月27日 会場参加180人

オンライン配信 2022年12月16日～ 推定視聴者数 1093人 視聴回数1649回(2月末日現在)

第4講「風土記が拓く出雲の古代史」 講師：吉松大志氏 日時12月17日 会場参加170人

オンライン配信 2023年1月13日～ 推定視聴者数 1012人 視聴回数1528回(2月末日現在)

2. 隠岐国巡回講座(オンライン配信)

第24回講座「隠岐の古代史 律令国家の前線基地」 大阪大学大学院教授 市 大樹

9月3日 西ノ島町黒木公民館 会場参加13人

オンライン配信 2022年10月24日～ 推定視聴者数416人 視聴回数633回(2月28日現在)

3. 石見国巡回講座(オンライン配信)

第21回講座「石見・安芸の中世の鉄生産」 比治山大学教授 安間拓巳

12月4日 邑南町 田所公民館 40人

オンライン配信 2023年2月2日～ 推定視聴者数286人 視聴回数410回（2月28日現在）

4. 古代出雲文化シンポジウム（オンライン配信・ケーブルテレビ放映）

「壮大なる出雲の交流」

基調講演「出雲への道・出雲からの道」約60分 森田喜久男（淑徳大学教授）

報告1「古墳時代の交通画期からみた出雲の交流」約20分 仁木 聡（島根県埋蔵文化財調査センター）

報告2「因幡・伯耆における古代山陰道研究最前線」約20分 坂本嘉和（鳥取県教育文化財団）

パネルディスカッション「交通・交流からみえてきた古代出雲の実像」約120分

パネラー：森田喜久男・仁木 聡・坂本嘉和・橋本 剛（古代文化センター）

司会：吉永壮志（島根県教育庁文化財課）

オンライン配信 2023年1月23日～ 推定視聴者数2456人 視聴回数3381回（2月28日現在）

県内ケーブルテレビ放映 2023年3月

5 第8回古代歴史文化賞松江記念イベント

「顔から読む古代の歴史 縄文時代から平安時代まで」

2023年1月29日（日） 島根県民会館中ホール 会場参加160人

主催 島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県

第1部 大賞受賞記念講演「顔から読む古代の歴史－縄文時代から平安時代まで－」設楽博己

歴代大賞受賞者ビデオメッセージ

第2部 特別賞受賞記念対談「古代を描く－早川和子の世界－」

早川和子（考古イラストレーター）・聞き手森田喜久男（淑徳大学教授）

6 斎宮歴史博物館公開講座（共催）

「伊勢と出雲の神・仏－古代の宗教世界を読み解く－」

2023年2月12日（日）、松江テルサ

基調講演 愛知教育大学名誉教授 西宮秀紀

報告 大川勝宏、川部浩司（斎宮歴史博物館）、松尾充晶

会場参加者172名

7 刊行物

①『古代文化研究』第31号 2023年3月刊 A4版

②『しまねの古代文化』第30号 2023年3月刊 A5版

・古代文化センター研究論集

①第29集『出雲神楽の研究』 2023年3月刊行 A4版

②第30集『出雲と吉備の交流』 2023年3月刊行 A4版

③第31集『近世近代の交通と地域社会経済』 2023年3月刊行 A4版

・古代文化センター30周年記念刊行物

①『出雲国風土記－校訂・注釈編－』 2023年3月刊行 A4版

8 WEB情報発信（<https://shimane-kodaibunka.jp/>）

昨年度リニューアルをおこなった新ホームページでは、定期的なコンテンツの更新、講座・シンポジウムの動画が視聴できる。このほか、刊行物情報・各種データベース・読み物などを公開している。

定期的に更新していくコンテンツと今年度の状況は以下のとおり。

① 連載コラム「いまどき島根の歴史」 島根県の歴史文化に関するトピックを取りあげた1000文字程度の読み物。今年度末の時点で、計49本のコラムを掲載した。

② ブログ「研究員の日記」 日常の調査研究での出来事や、こぼれ話などに関する日記風の読み物

今年度末の時点で、計8件の投稿をおこなった。

③ 動画「しまこだチャンネル」 ストーリー性のある4～10分間程度の動画でインターネット上の動画サイトで公開

今年度末の時点で、「渚にまつわるタタラアト♪ 一海の近くに製鉄遺跡!?!」「フドキ（風土記）の暮～

1300年の答え〜」「まぼろしの映像記録 和鋼製作技術（英語字幕版）」の計3本を公開した。
ホームページ年間（令和4年4月～令和5年3月）閲覧回数90,968、訪問ユーザー数38,720

9 その他の情報発信

山陰中央新報への記事提供

「いまどき、島根の歴史」（火曜日文化欄に連載）

2022年4月5日（第215号）～2023年3月28日（第255号）掲載。現在継続中。

執筆者：角田・平石・久保田・目次・東森・松尾・浅沼・吉松・橋本・田村・廣江・野々村・岩本・土橋

〔2〕第8回古代歴史文化賞

（1）主 催 島根県／奈良県／三重県／和歌山県／宮崎県（※選考及び受賞作発表は島根県が主務）

（2）選定委員 金田章裕（京都大学名誉教授・京都府公立大学法人 理事長）

草野満代（フリーアナウンサー）

久留島典子（神奈川大学国際日本学部 教授）

田辺征夫（公益財団法人元興寺文化財研究所 所長）

平川 南（国立歴史民俗博物館 名誉教授 山梨県立博物館 名誉館長）

毛利和雄（ジャーナリスト 元NHK解説委員）

（3）選考過程

4月28日 第1回選定委員会（WEB会議）

6月10日 図書推薦締め切り 推薦依頼先94 推薦冊数74 重複等を除いた審査対象冊数53

8月24日 作業チーム会議

9月26日 企画運営会議

11月2日 第2回選定委員会ならびに授賞式 於：帝国ホテル東京

（4）受賞作品ならびに特別賞

大賞 『顔の考古学 異形の精神史』設楽博己 著 吉川弘文館

優秀作品賞 『気候適応の日本史 人新世をのりこえる視点』中塚武 著 吉川弘文館

『戸籍が語る古代の家族』今津勝紀 著 吉川弘文館

『人事の古代史—律令官人制からみた古代日本』十川陽一 著 筑摩書房

『万葉集に会う』大谷雅夫 著 岩波書店

古代歴史文化賞 特別賞

早川和子 考古イラストレーター

（5）記念行事 〔1〕の5を参照。